



かどや通信

第30号

発行日：平成31年1月

発行行：かどや保存会

発行責任者：寺田 直喜／編集：廣野 克子

サンタもかどやにやって来た!! 子どもハッピー・クリスマス



と、いろんな卵を集めてきてふ化させたが、食べようとしたその時……

小学校が冬休みに入ったばかりの十二月二十二日、「かどや子どもハッピー・クリスマス」が行われ、小学生と付添のお母さん等、約二十名が一足早いクリスマス気分を楽しんだ。

まず、人形劇団おたまじゃくしによる人形劇「はらべこプンタ」が上演された。物語は、いつもおなかをすかしているいたちのプンタが、森で鳥の卵をみつけるが、卵でたべるより、ヒナにかえしてから食べよう



というストーリー。歌やキーボード等での音響効果もすばらしく、舞台には愛らしい動物たちがところ狭しと動き回って迫力満点。時折、動物の人形たちが観客席まで出てきてくれるので、子ども達は人形に触ろうと立ち上がって腕を伸ばしたりして人形劇の楽しさを存分に味わったようだった。

同劇団は「みえ次世代育成応援ネットワーク・子育て支援団体」に属しており、「一人でも多くの子ども達に生の劇に触れてほしい」と願う八人のお母さんで構成されている。毎週土曜の午後に練習を行い、子ども会や幼稚園等で公演を行っている。しかし、かどやのような座敷での公演は少ないそうで、「客席が近く、子ども達が人形に触りに来るなど、楽しんでくれているのがよく分り、演じている側もとても嬉しかった」と話してくれた。

人形劇の後は、お待ちかねのおやつタイムだ。クリスマス風の飾り付

けでパーティ会場に変身した台所で、クレープ・バイキングに舌鼓を打った。クレープはかどやのスタッフが前日にアイデアを出し合っ

て焼いたもので、トッピングのイチゴやバナナ、ジャム、生クリーム、カスタードクリーム等を子ども達が自由に選んで包んで食べるバイキング形式だ。最初は戸惑いがちだった子ども達も、すぐにクレープ包みに夢中になり、あっと言う間にトッピングがなくなり、スタッフがあわててバナナを追加する一幕も。



その後、オルガンの伴奏で「赤鼻のトナカイ」と「ジングルベル」を歌ってクリスマス気分も最高潮。するとそこに大きな袋を担いだサンタさんが登場し、子ども達はお菓子のプレゼントをもらってにこにこ顔。

かどやのクリスマスは、笑顔があふれる中で幕を閉じた。

光るセンスにリピーター続々!! 手芸サークル25周年記念作品展

伊勢市在住の伊沢喜美子さんが主宰する手芸サークル「まいペーす」が創立二十五周年を迎えたことを記念し、十一月二十九日から十二月二十日まで作品展を行った。

伊沢さんは、人形作家の米山京子さんに憧れて独学で人形作りを始め、平成五年に同サークルを立ち上げた。現在は、五十代から九十代まで十六人の生徒に、人形をはじめ、バッグやタペストリー、様々な小物等の制作を指導している。

今回の作品展では、生徒さんと共に作りためた作品約二百点が展示された。一階の玄関には、直径五十



センチほどの大きな地球儀の周りに世界平和を願う各国の衣裳を着た子供の人形四十体が

並べられた。また、大形の人形二体も来館者を歓迎するように飾られていた。

沢山のかわいい人形たちの出迎えて「まいペーす」の世界にいざなわれて本会場の二階に移動すると、まず廊下で二十体近いサンタクロースが迎え



てくれる。壁には、クリスマスを連想させるタペストリーも飾られており、わくわく感が高まるなか、和室に入ると、人

参をポケットに忍ばせたうさぎをはじめ、猫や大小さまざまな人形、四季を表す壁掛等が品良く並び。また、ストッキングで作った野菜も完成度が高く、特にじゃがいもは本物と間違っ程度で「すごい」と絶賛されていた。隣の部屋はバッグが中心で、それぞれに工夫が施された素晴らしい出来栄えに「売って欲しい」という声も寄せられたほどだ。また、お木曳を



する人形や猫の置物、十二月の特別な表徴を表現した匂い袋、お雛様等、その種類

は多岐にわたり、見る人を飽きさせない工夫が随所に凝らされていた。

見学者は「アイデアに富んだ作品の素晴らしさはもちろん、展示の仕方にもセンスが溢れていて、感動しました」と言い、「友達にも見せたい」と話

すリピーター続出で、会場は連日熱気に溢れていた。



長続きの秘訣

まいペーすのリーダー・伊沢さんに同サークルが二十五年間も続いた秘訣をたずねると「生徒さんが飽きないように毎回新しい内容を考えました。アイデアを絞り出すのはすごく大変でしたが、とにかく、皆さんと楽しく作ることを心掛けました」と話してくれた。

展示の仕方にも賞賛が寄せられたが、伊沢さんは事前に何度もかどやを訪れ、展示のイメージを綿密に膨らませていた。

作品搬入日には全員が参加し、伊沢さんの指揮のもと、それぞれの作品がテキパキと配置されていた。テキパキではあるが、ギスギスしているわけではなく、笑い声が飛び交い、終始和気あいあいの雰囲気漂っていた。二十年以上同サークルに通っている生徒さんも「とにかく笑いが絶えない教室です」と話してくれた。

好きなことを楽しい仲間と一緒に出来るのはなんと幸せなことだろうとوراやましく思うと同時に、その雰囲気を保っていくリーダーの熱意とパワーに感服した。

朗読の魅力に触れる！

平成三十年は趣向の異なる朗読会が三回も行われた。七月には朗読とピアノの「コラボによるリーディング・コンサート」、十月にはプロのアナウンサー・稲葉寿美さんによる朗読会があり、朗読の楽しさを味わった。三回目は、十一月十八日に「大人のための朗読ライブ 花笑み朗読会」が行われた。

「花笑み」は、平成二十三年に結成された朗読のグループで、志摩市を中心に地道なライブ活動を継続して行っており、毎回会場はほぼ満席になるそうだ。

今回は五人が出演し、高村光太郎の「千恵子抄」や芥川龍之介の「蜜柑」等四編の朗読と、ストーリーテリングで福島のユーモラスな昔話「芋ころも」が上演された。

その後、宮沢賢治の「雨にもまけず」は観客を巻き込み、その一節を全員で朗読した。さらに全員参加プログラムは続き「もみじ」と「里の秋」も全員で合唱した。最初は、はにかみがちに小声で歌っていたが、司会者の絶妙なリードによって、後半は全員



に笑顔が広がっていた。

花笑みの皆さんは「聴きに来ていただけることに感謝なので、とにかく楽しんでいただいで、笑顔になっていただけるよう、毎回皆でアイデアを出し合っています」と話してくれました。朗読の素晴らしさはもちろんだが、おもてなしの心溢れる演出力も、このグループの大きな魅力だった。

ジャンル広がる屋下がりコンサート

屋下がりコンサートは、平成二十五年九月二十二日に第一回が行われて以来、毎月一回は生の音楽を楽しんでいただくことを目標に実施している。平成三十年十二月のコンサートで七十六回を数えた。当初の

プログラムは、フォークと長尾オルガンが主流だったが、昨年十一月はジャズ、十二月は津軽三味線とフォークと、演奏のジャンルがどんどん広がってきている。

《晩秋のしっとりジャズにうっとり》

十一月二十五日は「懐かしの映画音楽をジャズトリオで」と題し、昨年二度目の登場となる宮崎義明トリオが、「枯葉」や「黒いオルフェ」

「シエルプールの雨傘」等の懐かしい映画音楽をしっかりと奏でてくれた。昭和世代には馴染みの曲ばかりで、うっとりとした聴き入っていた。



《明るい曲調にわくわく》

津軽三味線の演奏会は、十二月五日に行われた。今回は、

四日市市に本部を置く和楽民謡会の四日市市と志摩市の生徒さんの



合同発表会で、先生を含めて七人が出演した。かどやでの演奏は三回目で、今回は北海盆唄にはじまり、東京音頭や真室川温度、花笠音頭等十一曲を熱演。明るく華やかな演奏は、今回も聴く人をワクワクさせる魅力に溢れ、大きな拍手に包まれた。

《トリはやっぱり浜口バンド》

一年を締めくくる十二月最後のコンサートは、かどやが一般公開された平成二十五年から毎年浜口バンドが務めている。平成三十年もトリは浜口バンドで、「冬が来る前に」や「虹と雪のバラード」等懐かしいフォークに加えて、鳥羽市出身の山川豊の新曲「今日と言う日に感謝して」を熱唱した。前座にはかどやゼンザーズがクリスマス・ソングを演奏した。ここまでは毎年同じだが、今回は昨年長尾オルガン協会に寄贈された六十一鍵のヤマハのオルガンでバッハのプレリュードも演奏された。



山川豊の新曲を全員で合唱

《新年に向けて大掃除》

一年の汚れを清めようと休館日の十二月十八日に、ボランティアを含むスタッフ九名による大掃除が行われた。



掃除隊長・ノブちゃんの指揮のもと、豊や

廊下、窓ガラスはもちろん、天井や格子の裏側など、普段手が回らないところまでピカピカに。また、庭には黄色から茶色に変色したイチョウの落葉がそこここにたまっていたが、ユージさんがバズーカ砲のような庭専用の掃除機を駆使して集



め、見違えるようにきれいになった。しかし、年末の多忙な時期のため、大掃除は半日と決めており残念ながら障子には手が回らなかった。

ところが、障子はそこそこに穴があいたり、破けたりと、かなり悲惨な状況になっていた。そこで、来場者の少ない正月五日にカヨちゃんとお助手の二人で障子の修理を行った。昔は、障子の張り替えは年末の大掃除の一環として行われていた

が、今回は部分修理に止めた。そのため障子の色合いが元のものとは違ってたり、貼り方にゆがみがあったりと、かつて隆盛を極めた大庄屋の障子としてはやや悲しい出来映えではあったが、破れているよりは心地良しと二人で納得。障子修理も完成し、きれいなかどやで新年を迎えることができた。

《文化活動推進にご協力を》

かどや昼下がりにコンサートやかどや塾の講演会等はこれまで無料でご参加いただいていた。これは一人でも多くの方にかどやの文化活動に参加いただきたかったから。しかし緊縮財政のため、出演者の皆さんにも軽食は準備したが、出演料はゼロでご協力いただいた。

それでもなにかと経費はかかるため、昨年十一月から、文化活動推進のための協礼金として300円を徴収させていただくことにした。すると、出演者から「アマチュアなので参加費をもらうのは気が重い」との意見を多々いただいた。その気持ちは痛いほど分かるが、協礼金はあくまでも文化活動を維持するための協礼金としていただくもので、出演者個々への対価ではないことを、ぜひご理解いただきたい。ただし、今後はかどや保存会会員の皆さまには特典として協礼金は100円とさせていただきますので、引き続きご支援ご協力をお願いいたします。

時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設備 利用料
	10時～12時	13時～16時	10時～16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,000円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

◆◆◆ 貸部屋の案内 ◆◆◆
かどやを有効にご活用いただくとうと、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などにご活用ください。詳細は、かどやへ。
電話〇五九九―二五―八六八六

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された利用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

かどや保存会 平成30年度会員募集中!

かどや保存会は、歴史的文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援して下さる会員を募集しています。

お陰さまで本年度は12月末現在で340名の方にご登録いただきました。これからも一人でも多くの方々に楽しんでいただけるよう、更にこの輪を広げたいと思います。ご登録がまだの方は是非ご登録・ご支援くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

30年度(H30/4/1～H31/3/31)の年会費(1口2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入ください。

- (1)手渡し：かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。
- (2)銀行振込：郵便局 普通 かどや保存会 00850-4-151751
百五銀行 普通 かどや保存会 801-460713